

# 保育者のためのパソコン教室

仁愛女子短期大学 准教授 田 中 洋 一  
准教授 乙 部 貴 幸

## 1. はじめに

文部科学省が公立幼稚園に対して、2011 年度に行った情報通信機器・視聴覚教育設備等調査によると、保有率の高い機器は、デジタルカメラ (91.2%)、コンピュータ (91.6%)、CD プレーヤ (90.4%) の3つです。保育の現場でも、活動の記録、教材や文書の作成、各種データの管理、設定保育での活用等に、これらの機器が活用されています。

例年、本講座で開講している「園だよりの作成」講座は、参加者の減少からも、すでに園で活用されていると判断し、取り止めました。その代わり、リズム運動等で活用する「音楽ファイルの編集」、活動の振り返りや思い出ビデオ等で活用する「ムービー作り」を学ぶ講座を新設しました。

この新設講座及び「園児データ等の管理」講座を通して、参加者が ICT の知識やスキルを理解すると共に、人に伝える表現力やデータを読み解く分析力を身につけることを目的としています。

## 2. 開催日および受講者数

今年度は、教員免許状更新講習などにより夏期の講座が増加したため、表1のように冬期の開催となりました。

第1回は「音楽の編集&静止画でムービー作り」、第2回は「エクセルを使ってデータを管理しよう」と題して、中級者向け講習を行いました。第1回は田中、第2回は乙部が担当し、それぞれにおいて情報メディア教育支援室スタッフ、生活科学学科生活情報専攻の学生(パソコンボランティアサークル所属) 数名がアシスタントを務めました。

表1. 開催期日と受講者数

コース	開催期日	受講者数
第1回	平成23年12月10日(土) 9時～16時	12名
第2回	平成24年2月18日(土) 9時～16時10分	7名

## 3. 講座の内容

### 第1回 「音楽の編集&静止画でムービー作り」

パソコン操作に慣れている方を対象に、フリーソフト Audacityを用いた音楽ファイルの編集及びムービーメーカーを用いた動画編集を学んだ上で、ショートムービーを作成しました。

#### ① CD から PC へ音楽を取り込もう

Windows パソコン標準の Windows Media Player を用いて、CD から好きな曲を取り込み、好きな順番で音楽を聴く。

#### ②音楽を編集して、保育用 CD を作ろう

フリーソフトである Audacityを用いて、音楽編集(カッ



ト、消音、声の録音等）を行い、オリジナル CD を作成。今回の講座に関係する情報倫理（著作権、個人情報、肖像権）も学ぶ。

### ③静止画を用いたムービーを作ろう

Windows パソコン標準のムービーマーカーに、静止画（子どもたちの写真等）を取り込み、アニメーション効果やタイトル・キャプションを付け、ムービー作成。

### ④音楽をつけて、DVD を完成しよう

③で作成した動画に、②で編集した音楽等を付けくわえ、ムービーを完成させる。

## 第2回 「エクセルを使ってデータを管理しよう」

ワードなどワープロソフトの基本操作ができる方を対象に、エクセル 2010 を使って表計算ソフトの基本的な使い方を学びました。最新バージョンのソフトですが、機能的には過去のバージョンでも十分に可能な内容を中心に行いました。また、最後には CD-R に作成したファイルを記録して持ち帰っていただきました。

### ①表を作る

行事予定表の作成を通して、表計算（セル、行、列など）の概念、データ入力の方法、セル等の書式設定、連続データ作成（オートフィル）の方法を説明。

### ②データを集計してグラフを描く

エクセルの計算機能、関数機能、グラフ作成機能。



### ③データベースを作る

名簿を作成し、特定の条件によるデータの並べ替えや抽出。

### ④データベースを利用した文書を作成する

エクセルで作成した名簿データとワードの差し込み印刷機能を利用して、ラベル印刷。

## 4. おわりに

第1回の受講者数は12名、第2回は7名でした。他のイベントとの日程の重なりや急な大雪等のため、昨年度よりも参加者が減少しています。コンピュータが園に浸透したことも理由に挙げられますが、来年度は夏期開催に戻す予定です。アンケートの結果、各コースの全体的満足度について、7割前後の方に「満足」「やや満足」と答えていただきました。

表2. 受講の満足度

	不 満	やや不満	ふつう	やや満足	満 足
第1回	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%
第2回	0.0%	0.0%	33.3%	16.7%	50.0%

講座で取り上げて欲しい内容としては、園だより、パワーポイント、写真の加工等の意見が多かったです。今後、事務処理での利用だけでなく、視聴覚教育での利用も含め、保育者のニーズに合わせ、講座内容及び方法を改善していきたいと思います。